

タイトル：『ファニーたい焼きトム13 マ
グロカツ』

登場人物

トム（30代前半・男） 『たい焼きトム』
の店主。たい焼きを愛するアメリカ人。
ユーモアとエンタメ精神に溢れ、独創的
なたい焼きを生み出す。

魚住（20代前半・女） 『たい焼きトム』
のバイト店員。真面目で心配性な日本人。
トムの突飛なアイデアに振り回されなが
らも、たい焼き愛ゆえに協力する。

常連客たち

田中（50代・男） …… 甘党のサラリ
ーマン。

ユキ（30代・女） …… 食べ歩き好き

。TO の

カズ（20代・男） … YouTuber。何
でも挑戦する。

ミキ（40代・女） … 近所の主婦。
嗜好き。

子供たち … 学校帰りに立ち寄る
元気な小学生たち。

隣町のたい焼き屋店主（50代・
男） … ライバル店主。

脚本

シーン1: 開店準備

（朝、たい焼きトムの店内。陽気なアメ
リカンポップが流れる中、トムが颯爽と
店のシャッターを開ける）

トム「グッドモーニング、トーキョー！さあ、今日もファニーでデリシャスなたい焼きを焼きまくるぞ！」

（エプロンをつけた魚住が眠そうな目をこすりながら店内に入る）

魚住「おはようございます、トムさ

ん……。今日は、また何か変なこと考えてますよね？」

トム「変なことだなんて失礼な！クリエイティブって言ってくれよ！」

（トム、ドヤ顔で厨房のカウンターを指差す。そこには黄金色に揚げたマグロカツがズラリと並んでいる）

魚住「え……。まさか、これをたい焼きに入れるんですか？」

トム「その通り！ Introducing……『マグロカツたい焼き』！」

（魚住、呆れ顔）

魚住「トムさん……たい焼きって、普通は甘いんですよ？ 餡子とか、クリームとか……」

トム「ノンノンノン！ 甘いものに飽きた人は世の中にいっぱい！ サクサク衣のマグロカツと、ふわふわ生地の絶妙ハーモニー……これは革命だ！」

魚住「またそんなこと言って……。前の納豆チーズたい焼きのときは、お客さんに苦情もらいましたよね？」

トム「あれは……ちょっと攻めすぎた。でも今回は違う！ 揚げたてサクサク、ジューシーなマグロ！ そして特製タルタルソースを『Z』！ 完璧！」

（魚住、ため息をつきつつ試食）

魚住「…………う、意外と…………美味しい…………？
でも、これ絶対クレーム来ますよ！」

トム「ノープロブレム！さあ、オープン
だ！」

（トム、勢いよく暖簾をかける）

シーン♪：最初のお客たち

（開店と同時に、常連客たちが次々と来
店）

田中（50代・男）「お、今日は何のたい
焼きがあるの？」

トム「グッドクエスチョン！本日限定、
新作！マグロカツたい焼き！」

（田中、しばし沈黙）

田中「…………は？」

ユキ（30代・女）「え、何それ面白そう！
じゃあ一つください！」

（ユキがひと口食べる。目を大きく見開き、驚きの表情）

ユキ「お、おお……！？ サクサクの衣が香ばしくて、じゅわっと旨味が溢れる！その後、フワツとした生地が追いかけてきて……マグロの風味がしっかり生きてる！」

魚住（小声）「クセにならない人も多いと思いますけど……。」

カズ（20代・男）「お、YouTuber的には挑戦しないと！俺も食べてみるわ！」

（カメラを回しながら実食。目を閉じて味わう）

カズ「これは……ザクツと歯ごたえの後に、じんわり広がる魚の旨味！でも後味

が妙に甘い！？ うまいのか？ いや、変だ！ でも、食べちゃう！」

ミキ（40代・女）「え、そんなに変なの？
どれどれ……。」

（ミキも購入。食べた瞬間、息を呑む）
ミキ「な、何これ……！？ 最初の衣の香ばしさ、次に広がる魚の旨味とソースの濃厚なコク！ でも、たい焼きの甘みが……クセになるわね！」

（SNSで話題になり始める）

魚住「トムさん、SNSですごいことになってますよ！ 『謎のうまさ！』、『衝撃のたい焼き爆誕』、『クセになる味！』って書かれています！」

（お客が次々と増え、行列ができる）

シーン③ SNSの大反響と行列

（魚住がスマホを見ながら、SNSの投稿を読み上げる）

魚住「えっと……『これは未知の味！でもやみつきになる！』とか、『カツがサクサクすぎて、たい焼きの概念が壊れた！』とか……すごい反響ですよ！」

（店の前には長蛇の列。テレビ取材まで来る）

レポーター「今、巷で話題のマグロカットたい焼きとは！？早速いただいてみます！」

（試食したレポーター、目を見開く）

レポーター「こ、これは……食感の革命ですね！たい焼きの甘みとマグロの旨味が……絶妙にマッチしてる！」

（店内がさらに混雑し、魚住が大忙し）

魚住「トムさん、ヤバいです！もう生地が足りません！」

トム「ノープロブレム！追加で焼きまくるぞー！」

（トム、大量のマグロカツを揚げながら、ノリノリで焼いていく）

客▶「うおお、やっと買えた！これが噂のマグロカツたい焼き……！」

客♫「並んだ甲斐があった！うわっ、香ばしい香りがたまらない！」

（お客が次々と実食し、感動のリアクションを見せる）

客○「甘じょっぱい！でもクセになる……！」

子供たち「カリカリしてるー！お魚の味がするのにお菓子みたい！」

（次々とSNSに投稿され、さらに拡散される）

魚住「トムさん、これ……全国ニュースに取り上げられましたよ！」

トム「オー、マイ、ガー！俺たち、バズっちゃったね！」

（大歓声の店内。カメラを回すYouTuberやSNSインフルエンサーも現れ、どんどん盛り上がる）

シーン④：ライバル店のスパイ

（閉店間際。やっと一息ついたトムと魚住）

魚住「今日は本当にすごかったです

ね……。まだ信じられません。」

トム「フッフ、ファニーなたい焼きは世界を救うんだよ！」

（そこへ、一人の怪しげな男が来店する。
黒いサングラスと帽子で顔を隠している
が、妙に貫禄がある）

???「……………マグロカツたい焼き、一つ。」

魚住「えっ、もう生地が残ってませんよ！」

（トム、じっと男を見つめる）

トム「フム……………君、もしかして……………」

（男、帽子を外す。隣町のたい焼き屋店主だった！）

店主「……………ウチの店も新作たい焼きを考えていたが、これは……………レベルが違いすぎる！」

魚住「スパイだったんですか!？」

店主「正直、ここまでのものは真似できない……。敗北を認める！」

（そう言っつて、店主は静かに去って行く）

トム「ハハハ！俺たちのファニーたい焼きに勝てる者はいないのさ！」

（魚住、呆れつつも笑顔）

魚住「まあ、結果オーライってことですね。」

エピローグ：伝説の誕生

（翌日。朝から店の前にはすでに行列ができている）

客B「昨日食べたけど、忘れられなくてまた来ちゃった！」

客C「全国からお客さんが来てるらしいよ！」

(トムと魚住、店内で準備しながら会話)

魚住「まさかここまで人気になると

は……。」

トム「フッフ、これがフアニーたい焼き
パワーさ！」

(カウンターには、新メニューの張り紙。

「次回の新作：〇〇たい焼き！? Coming

Soon!」)

魚住「……またヘンなたい焼き考えてる
んですね？」

トム「イエース！ どうせ作るなら、もっ
とフアニーなやつをね！」

(魚住、苦笑しながらも楽しそうに頷く)

(エンドロール：活気に満ちた『たい焼
きトム』。マグロカツたい焼きの伝説は

続く……！)

• シーン1(導入) … 10分

- たい焼きトムの紹介、トムと魚住のやりとり

- マグロカツたい焼きを発案・試作

• シーン2(初めてのお客のリアクション) … 15分

- 試食シーン(詳細な食レポート・リアクション)

- 客の感動や驚き、ロコミの広がり

• シーン3(SNSの大反響と行列) … 25分

- SNSの拡散、行列、テレビ取材
- さまざまな客の感動リアクション
(飯テロ演出)

- 店の大混雑と魚住のパニック

• シーン4(ライバル店のスパイ) … 15分

- 閉店間際の安堵、トムと魚住のやりとり

- ライバル店主のスパイ行動と敗北宣言

- エピローグ（伝説の誕生）…10分

- 『たい焼きトム』の大繁盛とその後の様子